

令和4年度学校自己評価システムシート（県立熊谷西高等学校）

目指す学校像	生徒の力を最大限に伸ばす県北が誇る進学校
重点目標	1 知性・自信・品格を備えた西高生を育成する 2 高い志と学力を育み、第一志望進路を実現できる西高生を育成する 3 家庭や地域と積極的に連携・協力し、開かれた西高づくりを推進する 4 SSH指定校として、西高生の科学的な資質の向上に全校で取り組む

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	15名

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)	
年度目標					年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	多くの生徒が節度を持ち、主体的に学校生活を送れている。教職員の声かけを増やすとともに、一層自主性と積極性を高めることが望まれる。	⑦学校全体でマナー、ルール順守を徹底する。 ⑧生徒の自主性と積極性を一層高める。 ⑨感染症拡大防止を行いながら、心身の健康増進を図る。	①交通安全指導、登校指導の実施。 ②教職員の挨拶の励行。 ①行事や委員会活動において生徒の自主的活動を推進する。 ②部活動においてチャレンジ精神やチームワークを育成し、達成感や自信を持たせる。 ①教育相談体制の充実。 ②感染症拡大防止の徹底。	①年20回以上実施したか。 ②生徒の自発的な挨拶が増えたか。 ①生徒の自主的な取組が増えたか。 ①生徒が協働し行事が成功したか。 ②複数の部で県大会入賞以上。 ②部活動加入率90%以上。 ①生徒が相談しやすい環境を作れたか。 ①教職員間の共通理解に基づいた指導が実施できたか。 ②感染症拡大防止を徹底できたか。	マナー、ルール順守を徹底し、生徒の自発的な挨拶も増えた。 ①自主的な取組により全行事を実施し成功を収めた。 ②全国大会に4つの部等が出場するなど多くの成果を上げた。 心身の健康増進が図れた。 ①家庭や教職員間で十分連携をしながら生徒、保護者の相談にきめ細かく対応した。 ②感染症拡大防止を継続的に行った。	B
2	近年、進学実績の向上が見られる。基礎学力の定着を図るとともに、新学習指導要領や大学入試の変化に適切に対応し、一層充実した進路指導を行う必要がある。	⑦国公立大学や難関私立大学等の第一志望校合格を実現する。 ⑧新学習指導要領、高大接続改革を踏まえた授業改善により、基礎学力を充実させるとともに、思考力、判断力、表現力を向上させる。	①補習や個別指導等を行い、大学入試対策の充実を図る。 ②適切な情報提供や個人面談等により、最後まで高い目標を諦めさせない指導を行う。 ①探究活動を通じて主体的に学ぶ態度を育てる。 ②各授業でAL(アクティブラーニング)活動を充実させる。 ③朝学習、進路自習室、学習動画等の活用により自学自習を促進する。 ④読書を推奨し、読み取る力と他者に伝える力を育成する。	①効果的な大学入試対策を実施できたか。 ①補習参加者が増加したか。 ②第一志望校進学数が昨年より増えたか。 ①探究活動の成果が見られるか。 ②各教科で「AL5Five」「LO5Five」等により「主体的・対話的で深い学び」を実現できたか。 ③朝学習や自習室及び家庭における学習時間が増加したか。 ④図書館の利用者が増加したか。 ④ビブリオバトル等の読書推進活動に積極的に取り組めたか。	アクティブラーニングを積極的に導入して思考力、判断力、表現力を鍛えた。 ①補習参加者が昨年度から増加した。 ②国公立大学受験者が増え、多くの生徒が共通テストに取り組んだ。 国公立大学受験者が増えるなど目標を維持した生徒が多かった。 ①②年間を通じて補習や二者面談を多く実施した。また「進路の道標」や進路だより、進路講演会等で適切な情報提示と具体的な指導を行った。 ③大半の生徒が朝学習に参加し、家庭学習等の時間も増えている。 ④図書館の利用者は昨年度に比べて倍増した。 ④図書委員会を中心にビブリオバトルを実施、県大会へ出場した。	A
3	高大連携等校外の教育力を活用した特色ある教育活動が実施されている。生徒募集に繋がる機会を逸さない積極的な情報発信が必要である。	⑦大学、企業、研究機関等との連携や家庭との連携を一層発展・充実させる。 ⑧Withコロナにおける生徒募集活動を一層充実させる。	①既存の連携事業を一層発展・強化する。 ②講演会や学校ホームページ、進路の道標等を活用し、保護者に十分な進路情報を提供する。 ③学校行事とPTA各種委員会との連携を図る。 ①学校説明会、相談会等を効果的に実施する。 ②インターネットを一層活用する。	①実施回数や参加者数が昨年度を上回ったか。 ②講演会の参加者が増加したか。 ②学校ホームページ等で十分な情報提供ができたか。 ③学校行事実施においてPTAと積極的な連携ができたか。 ①②生徒募集において昨年度の倍率を上回ることができたか。 ②学校ホームページの更新を定期的に行えたか。	大学や研究機関等外部機関との十分な連携を果たした。 ①②リモートでの連携、講演を含め予定事業は全て実施した。 ③感染防止の観点からPTA行事の多くは中止となった。 昨年度と比較して理数科の希望者数が増加した。 ①予定通り説明会、相談会を実施し好評を得た。 ②Webによる広報活動は一層充実することができた。	A
4	学校全体としてのSSH事業への積極的な取組が定着しつつある。併せて取組の校外へのPRと地域貢献が必要である。	SSH事業を通じて科学的素養や探究心、プレゼンテーション能力等を引き続き育成するとともに、校外へのPRを行う。	①全職員が共通理解のもとSSH事業に取り組む。 ②「KN-Line(熊西『学び』の双方向ライン)」を一層充実させる。 ③「SL-Net(サイエンスラーニングネットワーク)」の取組として情報発信や地域の学校と連携して新規交流会等を実施する。	①全職員による事業展開ができたか。 ②課題研究や探究活動における発表の機会等を通じて、双方向の学びを一層充実させられたか。 ③効果的な情報発信、地域の学校との連携による地域貢献ができたか。	全教職員が協力してSSH事業をほぼ計画通り実施できた。 ①②普通科も含め学校全体での研究発表会を実施した。 ③楽しもうサイエンスの実施などSL-Netの取組ができ、情報発信と地域貢献が図れた。	A

学校関係者評価	実施日 令和5年3月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	学校関係者からの意見・要望・評価等 ・学年で生徒指導のばらつきがあると感じられる。学校として統一した指導をお願いしたい。 ・コロナ禍において、感染防止対策を行いながら学校行事を行われたことに感謝している。 ・1・2年生の下校時刻が午後7時以降で約30%となっている。時間効率を高めて帰宅時間を早める努力を行い、午後7時完全下校の徹底が必要と思われる。 ・国公立大学受験者が増え、多くの生徒が共通テストに取り組み、進路希望を実現させていることは大いに評価できる。 ・日常生活の中で英語を駆使できる程度までレベルを上げて欲しい。 ・学習意欲の低い者や基礎学力が未定着の者への対応も必要と感じている。底上げのためのフォローをお願いしたい。 ・ホームページが充実しており、Webによる広報活動は効果的に行われていると考える。 ・方策の評価指標に対して、年度評価となっていないと思われる。 ・学校案内における普通科と理数科の掲載バランスについて再考する必要がある。 ・他県の高等学校からモデルとして視察を受けるなど、全国から注目されていることは喜ばしいことである。 ・理系志望者の増加も1つの成果であると評価できる。 ・SSH事業の取組について、全校で満足度の高いものにするため、さらに充実を図ることを期待する。